

第 27 回福島ダイアログ（日本語）

第 27 回福島ダイアログ：ふるさとへの思いー 私たちはどこから来て、どこへゆくのか　：福島の声

日程：12 月 6 日（土）　7 日（日）

共催：福島大学未来創造リサーチセンター

支援：ASNR（フランス原子力安全・放射線防護庁）

後援：大熊町

協賛：CEPN, 日本保健物理学会、日本リスク学会

目的：原子力災害は、放射性物質による環境汚染によって、人と土地とのつながりに大きな影響をもたらします。特に、自然環境や風土に根差したライフスタイルや職業ほど、その与えられる影響は大きくなります。福島事故でも、山間部の伝統的なライフスタイルや、農林水産業のような自然と直接向き合う職業は、14 年が経過した今も、いまだその影響が残っています。

また、避難によって暮らしの場から追われ、住み慣れた土地から離れざるをえなかった人たちもたくさんいます。避難指示は徐々に解除されていますが、長い避難によってコミュニティは変質し、また、物理的にも除染と復興事業によって、大きく姿を変えることになりました。

土地と人とのつながりは、たんに住まいがそこにあるという物質的な問題だけにとどまりません。精神的なつながりによって、土地は人のアイデンティティの一部ともなるからです。ひとりひとりの人生だけではなく、原子力災害は土地と人とのつながりを変化させ、拠って立つものとの関係をまで変えたといえるかもしれません。そしてその影響は、地域の歴史にも及びました。こうした無形の資産は、「社会的資本」とも呼ばれ、その重要性は広く指摘されています。

27 回目を迎える福島ダイアログでは、土地と人のつながりがどのように変わったのか、そして、この先、どのように新しいつながりを生み出していけるのかについて語り合う機会としたいと思います。

プログラム：

■ 1 日目（12 月 6 日 土曜日）

トレイル with オープンラディエーション

場所：浜街道トレイル（富岡駅～夜ノ森 約 5km）

11:20 富岡駅前集合

11:30 トレイル出発

15:30 夜ノ森到着

内容：フランス ANSR から参加のジャンマルク・ベルソさんと一緒に途中で放射線測定や場所の解説を行いながら歩く

■ 2 日目（12 月 7 日 日曜日） 会場：クレバおおくま 1 階会議室

zoom 同時配信（日英同時通訳付き）

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_6N8SvmAJ Sya2_MlmGau43g



午前の部

10:00 ダイアログのテーマ紹介：安東量子（NPO 福島ダイアログ理事長）

10:10 OpenRadiation について ジャン・マルク・ベルト（ASNR）

- 10:30 トレイルウォークから見る福島現状 佐々木大記（NPO 福島ダイアログ）
- 10:50 赤宇木地区の記録誌について 今野邦彦（赤宇木記録紙編集委員会）
- 11:10 チェルノブイリ事故のサーミ民族への文化的影響について・オンライン
インガー・マリット・エイラ＝アーレン（ノルウェーサーミ議会議長）
- 11:30 質疑応答・議論
- 11:45 ポスター説明
- 12:00 昼食・ポスター見学

午後の部

- 13:30 IDPA ダイアログ（8名の参加者による対話）

司会の質問に参加者に順にご自分の意見を述べていただきます。

1人5分×2回

対話参加者（8名、順不同・敬称略）

榊原 比呂志：双葉町在住

石田 恵美：JA 福島さくら女性部ふたば地区双葉支部 支部長

木村 紀夫：一般社団法人大熊未来塾 代表理事

西島 香織：原子力災害考証館 furusato 事務局長

今野 邦彦：赤宇木記録紙編集委員会 副委員長

阿部 翔太郎：株式会社 ReFruits 取締役

高木 春菜：いわき市出身

鷺巣 桂以子：川俣町地域おこし協力隊

15:00 休憩

15:30 オブザーバーからの意見・質問（3分×10人）

会場や Zoom からご参加の皆さんからの意見やご質問をお伺いします。

テーマにかんするご自身の見解や、あるいはパネリストへのご質問などがありましたら、ぜひお聞かせください。この時間は、オンライン参加の方も会場に音声をつないで話していただける形にします。

16:00 まとめ：Win Thu Zar

16:20 閉会の挨拶：安東量子

16:30 閉会

IDPA（識別・診断・展望・行動）ファシリテーション手法は、複雑な状況に直面するステークホルダー間で、傾聴、参加、建設的な対話を促進することを目的とした手法です。実際の経験から、このアプローチはさまざまな文脈で生じる課題に対して対応策を導き出すことができ、多くの場合において、その解決策に関する妥協点を見出す助けとなることが示されています。たとえそうした合意に至らない場合でも、IDPA 手法には、参加者一人ひとりが直面している状況や、他者の視点をより深く理解する手助けとなるという意義があります。

この活動はファイザー株式会社「2024 年度ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」の助成を受けています。

福島県内で活動されている皆さまの活動内容の紹介として、会場後方と1階ホールで展示を行います。どうぞご自由にご覧ください。

所属団体	お名前	展示内容
NPO 法人インビジブル	山本 暁甫 様	冊子、A4 チラシ
一般社団法人大熊未来塾 (福島大学地域未来デザインセンター)	木村 紀夫 様	パネル展示 (1 階ホール)
NPO 法人ふくしま浜街道 トレイルアソシエーション (FCTA)	中島 悠二 様	ポスター2 枚、団体パンフレット、写真、ハイキングパスポート
赤字木記録紙編集委員会	今野 邦彦 様	書籍 6 点 ①赤字木記録紙編集委員会「浪江町赤字木の記録『百年後の子孫（こども）たちへ』」 ②岸 チヨ「集団服毒自決 生還への手記 福島県下学田開拓団の奇跡」 ③馬場 靖子「あの日あのとき古里のアルバム 私たちの浪江町・津島」 ④豊田 直巳「百年後を生きる子どもたちへ」 ⑤豊田 直巳「帰れない山里 消えゆくわが家」 ⑥須賀 武継「浜通り 2000～2003 福島」
JA 福島さくら女性部 ふたば地区双葉支部	石田 恵美 様	双葉だるま 数点

NPO福島ダイアログ近況

【新体制とニュースレター発行について】

2024年の年末、NPOの理事会では、もっと多くの方に活動を知ってもらうため、ニュースレターの内容を充実させ、年4回発行することになりました。

そして2025年春には、事務局に新しく門馬麻衣子さんが加わり、ニュースレターのデザインを担当。新しい体制の第1号として、Vol.17（2025年4月号）が発行されました。

【Vol.17（2025.4）】

- ・理事長 新年度のごあいさつ
- ・追悼：菅野源勝さん
- ・事務局開設のお知らせ／担当紹介
- ・ICRPタスクグループについて
- ・チェルノブイリを想う
- ・写真展「in ten years — 理想郷」
- ・5月福島イベント情報（相馬野馬追 ほか）
- ・桜美林大学学生による探究活動成果発表



故菅野源勝前副理事（2017年ダイアログ@川俣町山木屋にて）

Vol.17の発行以降も、さらに3つのニュースレターが届けられ、NPOの取り組みや大切なテーマへの向き合い方、福島からの最新情報などをお伝えしてきました。
内容はとても多彩で、たとえば次のような記事が掲載されています。

【Vol.18（2025.7）】

- ・2025年度総会の報告
- ・運営理念（2025年6月15日理事会承認）
- ・書籍紹介：馬場泰子『あの日、あの瞬間』



【Vol.20（2025.10）】

- ・サミの人々の姿
- ・山木屋三匹獅子舞映画プロジェクト
- ・市民科学プロジェクト「OpenRadiation」



【配信登録のご案内】

オンライン版ニュースレターを定期購読しませんか？ぜひご登録ください。

ご不明な点は会場スタッフへお声がけください。

配信登録はこちら →

